

語彙指導 —理論と実践—

埼玉県立川越高等学校 江口秀喜



単語神話というものがある。単語さえ覚えればネイティブに英語が通じるとか、英語力が大幅にアップして受験でうまくいくとかいった類の信仰である。単語集が書店をにぎわし、受験生が真っ先に、あるいは最後の手段として飛びつくのも単語集、現場の教師達もこぞって単語集の丸暗記を奨励している。

言語学習理論や言語心理学等のフィルターを通さずに語彙獲得の方法論について考えると、様々な願望にも似た迷信が生まれてきてしまうようである。数多くの単語単体を丸暗記することが言語をマスターする近道であるとか、外国語のどの単語も母国語の言葉に全く問題なく置き換えることができるとか、単語集等で丸暗記した語彙は長期間にわたって記憶にとどまるものだとか、さらには丸暗記した語句は実際の場面でスムーズに高速処理できるものだとかいう結論に至ってしまうようである。

当然、語彙習得は言語学習において重要な部分を占めており、指導する側が何らかの形で指導を提供しなくてはいけないことは言うまでもない。問題は如何にすれば効果的な語彙指導が可能であるかということであり、そのためには言語習得のメカニズムを正しく認識した上でその理念と方法論について考察する必要がある。

言語学習理論の変遷

語彙獲得の手法について提案をする前に、言語学習理論の流れについて簡単に触れておきたい。1900年代にIvan Pavlovが犬に音叉を聞かせてからエサを与えることにより、音叉を聞いただけで唾液を分泌するようになるという、いわゆる古典的条件づけの実験を行った。行動主義心理学の始まりである。Pavlovにとって学習とは刺激

(stimulus) と反射反応 (response) の結びつきであり、この結びつきを成立させるためには強化因子 (reinforcement) の存在が必要不可欠である。そして、強化因子を省いてしまえば、やがては刺激と反射反応の結びつきが解消され、その学習は消滅してしまうとした。

1930年代に入り、B. F. SkinnerはPavlovの考えは動物の学習に当てはまるものであって人間には当てはまらないとし、人は自ら環境に働きかけ、それによって得た結果によって一定の概念または行動が強化され、学習が成立すると考えた。Skinnerは刺激と反射反応の結びつきよりも、環境に働きかけることによって得た強化因子の働きのほうが学習を成立させる上で重要であるとした。また、Skinnerは言語を言葉のoperant (環境への働きかけ=発話) の体系であるとし、子供は何の言語材料も持たない真白な状態の中でoperantを発し、強化因子を通して条件付けされ、言語材料を増やしてゆくものだと考えた。

行動主義派の主張する言語獲得形態はオペラント条件付け (自発的行動が報酬によって強化される条件付け) による言語習慣の形成であり、語学指導は、適切な強化を生じるよう綿密にデザインされたカリキュラムのもとでのverbal operant (強化を生じるよう環境に働きかける言葉因子) の練習に当てられるようになった。こうして、50年代、60年代、70年代初頭のアメリカはaudiolingual methodに強く影響されることになる。

1960年代に入ると、演繹的に事象を捉え、行動の奥底にある動機・心理構造を研究対象とする学派が生まれてきた。いわゆるDavid Ausubelらに代表される認知心理学の登場である。Ausubelは、学習とは人がそれまでに築いてきた

自己の認識体系に新しい事項を関連づけることによって成立するものであり、その過程においては「意味の存在」が重要な役割を果たし、「意味」を介在した関連付けこそが新しい知識を獲得したり、保持したり、あるいは自己の認識体系をさらに大きなものへと発展させることができると考えた。

機械的学習と意味的学習

Ausubelは「機械的学習 (rote learning)」と「意味的学習 (meaningful learning)」の違いについて明確に論じている。彼によると、機械的学習とは相互に関係のない事柄を意味を介在させずに認識体系に埋め込もうとする作業であり、この学習形態で獲得した知識は自己の認識体系の一部となることはなく、しかも直前 (proactive inhibition)・直後 (retroactive inhibition) にインプットした知識と相互に干渉・妨害しあい、打ち消しあうため、その記憶保持は極めて困難なものになる。郵便番号や電話番号の暗記がよい例であるが、たとえ自分に関係する番号は記憶できたとしても、多量の番号を長期にわたって記憶することはほぼ不可能なはずである。これに対して意味的学習とはこれまでに築いてきた自己の認識体系に新しい知識を絡み付けてゆく作業であり、新たに取り入れられた知識は既存の体系化された知識と相互作用をもち、簡素化された形でその認識体系の一部を構成してゆくことになり、長期保持が可能となる。ただし、このプロセスが成立するためには、「意味」が介在することが絶対条件であるとしている。

上記理論の興味深い点は、意味的学習によって得た記憶も決して永続的なものとは言えず、より包括的な記憶体系を形成するためにその大部分が失われていってしまうとした点である。むしろ、ある程度の忘却、つまり個々の知識の不要部分を削り落とすという過程を経なければ、自己の記憶体系は進化・発展してゆかないというのである。

このように見てくると、教育現場においては機械的学習を極力避け、意味的学習を主体とした教育環境を整えるべきであるという視点が見えてくる。また文法説明や語の定義といった個々の知

識は、学習者の記憶体系に概念化した段階でむしろ忘却を期待すべきであって、その正確な記憶保持を求めるのは理に反しているということもわかってくる。

単語単体を丸暗記してゆくという方法は行動主義派的理論に基づいた機械的学習による短期的暗記のための作業にすぎない。しかも、学習が成立するためには刺激と反射反応の間に直接的で明確な reinforcement の存在が不可欠であるはずなのに、それがどこにも見当たらない。つまり、行動主義派的観点から眺めても単語の丸暗記は学習として全く成立しない、意味のない作業なのである。

単語の頻度と言語的推測能力

次に単語の頻度という問題について言及しておきたい。多くの人は、頻度の高い語の数が少々で、頻度の中程度の語の数が大半、そして頻度の低い語が少々といった釣鐘状のグラフを思い描いているはずである。しかし、実際には頻度の高い語はごくわずかで、頻度の低い語になるほど多くなってゆくという右肩上がりの構造であることが報告されている。つまり、日常接する英文に出てくる語のほとんどが低頻度の語であるということになる。

ある研究によると1,104,235語から成る英文について調べたところ、頻度1位から10位までの語が全語数の4分の1を占めたという。しかも、頻度10位の語 (he) は平均106語ごとに、頻度100位の語 (down) は1,133語ごとに、そして頻度1000位の語 (reach) にいたっては9,568回に一度しか出てこなかったという。そして総語数のほぼ半分にあたる語が一度しか出てこなかったとのことである。このような事実をもとに語彙指導について考えると、コンピュータ等を駆使して学習者が将来遭遇するであろう単語を予測して覚えさせることの効果がどれほどのものなのかご理解いただけると思う。

ここで、人の持つ言語的推測能力について考察してみたい。子供が人の話を聞いたり、本や新聞を読んだりする際、初めて目にする語の意味を周囲の人に聞いたり、辞書を引いたりすることはまるで、無意識のうちに文法知識・現実世界の知識・

文脈等を活用しつつ、意味を推測しながら読み進んでいるように思われる。そしてその語に出会う度に意味の仮説を立て、文意の流れの中でその意味を検証しつつ、その語の持つ幅広い意味を獲得してゆくと考えられる。

人の発話・文章には言葉の繰り返し・言い換え・説明といった無駄な部分が数多く含まれている。いわゆる「言語の冗長性」と呼ばれるものである。実はこの興味深い言語の特質こそがコミュニケーションを円滑に進行させているものであり、初めて出会った語の意味の推測を可能にしているものなのである。冗長性を人為的に全て取り去った文は極めて不自然なものとなり、理解することが極めて困難になってしまうという。英語総合力を判定するテストとして評価の高い cloze test もこの言語の冗長性を活用したものであるし、言語的推測能力も冗長性という言語の特質の上に成り立つ技術なのである。

英語学習者が未知の語句に出会った時の反応は3つ考えられる。パニックになるか、すぐに辞書を引くか、その意味を推測しつつ読み進むかである。文脈から意味を推測する習慣を身につけていない者や予習などの際に新出語をすぐに辞書で調べる癖をつけている者は、試験やネイティブとの会話など実際の場面で往々にしてパニックになりがちである。

学問に王道なしと言われるが、学習者の語彙力を高めるためにすべきことは、単語集を使った短期的記憶のための機械的学習を奨励することではなく、語彙力不足を補い、自然かつ確実な形で語彙を増やしてゆくための語彙獲得技術である「合理的推測能力」を身につける場を提供することである。確かに、この種の教材を用意することは指導者側にとって決して楽な作業とは言えないし、学習者がこの方法で満足ゆく語彙力を養うためには数多くの英文に接する必要がある。しかし、この手法は最も確実で最も効果的な語彙の獲得法であり、また学習者にとって十分に楽しめる内容のものでもある。指導者は結果の期待できない手軽な学習法を奨励するのではなく、手間と時間はかかったとしても、長期的記憶のための意味的学習の場を整えるべきだと考える。

●「合理的推測」を指導する上での留意点:

1. 品詞や文構造の知識は「合理的推測」の基礎となるので、初期段階から指導する。
2. 接頭辞・接尾辞の知識も「合理的推測」の手助けとなるので、ある程度指導する。
3. however、therefore、dash (—) といったいわゆる discourse connectors や context clues と呼ばれるものも大きな手助けとなるので暫時指導してゆく。
4. イディオムは実際の英語での使用頻度が高く、また個々の単語の意味を合わせただけでは意味がわからないため、初期段階から指導してゆく必要がある。
5. 推測した意味の曖昧さを許容する気持ちを持つこと、辞書を使うべきか使わざるべきかを見極める判断力を持つことも指導するとよい。

以下に、語彙指導のための実践例をいくつか紹介するが、このような練習を行った上で、その語彙が含まれている英文を読ませることが理想である。

Pattern 1

問：下線部の語の意味を、文脈から判断してそれぞれ下から選びなさい。

1. I must adjust my watch. It is seven minutes slow.
1. 新品の 2. 既製品 3. 調整する
4. 取り替える
2. His conscience kept him from stealing the food. He has a good heart after all.
1. 悪意ある 2. 良心 3. 平常の 4. 警戒心
3. I looked back and felt sorry for what I had done to you. I really regret it.
1. 感謝する 2. 後悔する 3. 不満を言う
4. うれしく思う

Pattern 2

問：下線部の語の意味を推測してみよう。

1. Japan is composed of 47 prefectures, such

as Okinawa, Tokyo, Hokkaido, etc.

- The equator is an imaginary line drawn around the middle of the Earth at an equal distance from the North Pole and the South Pole.
- Unfortunately my father was dismissed from his job in January. He has been out of work for two months now.

Pattern 3

問：下線部の語の 1)品詞を考え、2)おおよその意味を推測し、3)辞書を引いて一番ぴったりだと思う意味を書いてみよう。

- The criminal didn't utter a word. He kept silent all the time.
1) _____ 2) _____ 3) _____
- I work part-time at Wendy's in front of the station. I earn about 3,000 yen a day.
1) _____ 2) _____ 3) _____
- We are running out of gas. We have to find a gas station as soon as possible.
1) _____ 2) _____ 3) _____

Pattern 4

Directions: Read the following sentences. Then, fill in the blanks with the best word or words.

- Solar energy is potential energy. It has not been developed so much yet, but is capable of being widely used in the future.
Potential energy is energy which has not been used yet, but is _____.
- This area is well-known for longevity. Many people live to be more than 80 years old. We do not know why they have such a long life.

Longevity means _____.

- The message was transmitted by wire. The sender was my father.
Transmit means to _____.

Pattern 5

Directions: Read the definitions and examples.

reduction n. decrease or cutdown

World arms reduction has been advocated by many leaders of the world. However, the fact is that the number of arms is increasing year by year.

contaminant n. a thing which makes the environment unclean

I was surprised that Mississippi River was so dirty. Jim explained that it was because the river contained numerous contaminants from the factories along the riverside.

pollution n. the state of the environment which has been made unclean through human activities

You sometimes have sore eyes in Tokyo during the summer. It is caused by a kind of pollution from the mixed effects of sunlight, heat and waste gas from automobiles.

Exercise: Select the best word for each of the blanks below. Choose **reduction**, **contaminants**, or **pollution**.

One of the big problems which Shanghai faces today is air _____. The air used to be clean a decade ago, but no more. The _____ which cause this problem are mainly from automobiles. Since controlling the number of cars is not realistic, the _____ of waste gas seems to be the only alternative. This is not impossible with today's highly developed technology.